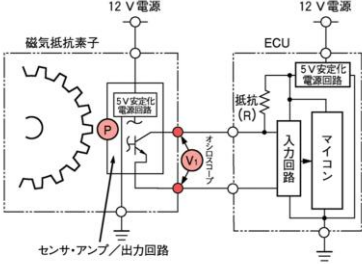
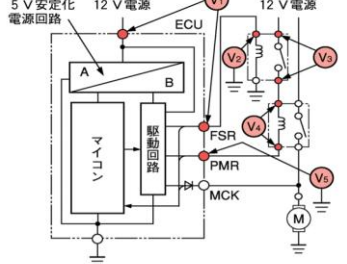
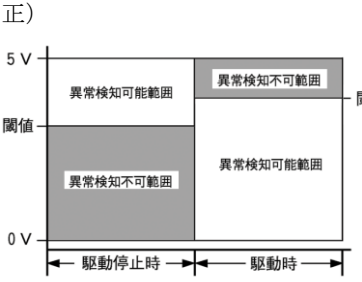
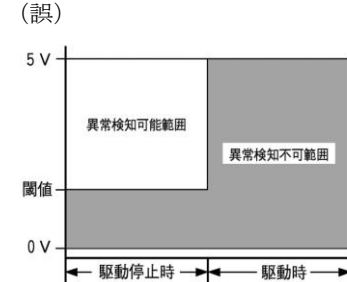
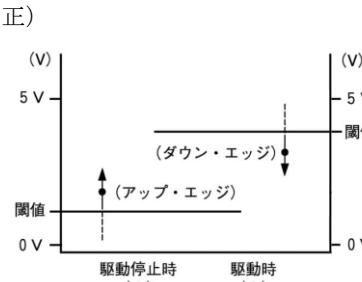
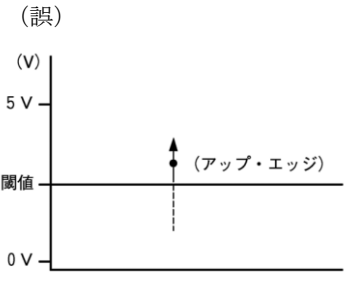
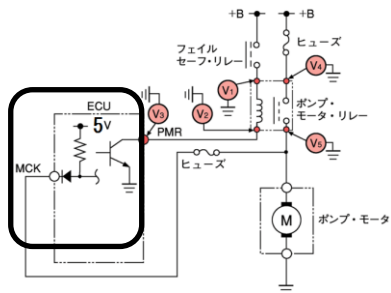
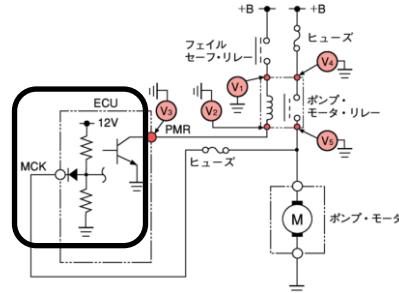


〔シャシ電子制御装置〕 (第三版—訂正表 2 号)

変更頁	変更行	変更内容	
106 頁	下から 9 行目	傍線部分を削除	もう一方の外側端子を信号アースとした場合、 <del>回転シャフトのセンタ端～</del>
107 頁	下から 19 行目	傍線部分を削除	センサの機能低下 (特性異常) や各配線に接触抵抗の増大などが発生し、 <del>実際の操舵の角度、速度と操舵力～</del>
117 頁	上から 5 行目	傍線部分を削除	センサの機能低下 (特性異常) や各配線に接触抵抗の増大などが発生し、 <del>操舵角度、操舵速度及び操舵力そ～</del>
123 頁	図 1-85	図の差替え	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(正)</p> <p>図 1-85 異常検知範囲 (2)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(誤)</p> <p>図 1-85 異常検知範囲 (2)</p> </div> </div>
127 頁	下から 2 行目	傍線部分を削除	CW 信号線の異常 (断線、 <del>短絡、接触～</del> )
130 頁	図 1-101	図の一部訂正	<p>図中の○部が訂正箇所 (W 相の『U⇒V』の波形を訂正)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(正)</p> <p>図 1-101 信号電圧特性</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(誤)</p> <p>図 1-101 信号電圧特性</p> </div> </div>
130 頁	上から 12 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	て、U 相、V 相、W 相の各相の磁束を検出し、 <del>マイコン駆動アンプ</del> にフ～
	下から 10 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	置を検出して、 <del>マイコン駆動アンプ</del> にフィードバックすることで算定している。

変更頁	変更行	変更内容					
134 頁	上から 5 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	場合で、アクチュエータ(モータ)の動作が不良のときは、モータ、信号駆動アンプ及び ECU 本体の異常が～				
167 頁	図 1-58	図の差替え	<p>(正)</p>  <p>図 1-58 検出情報と信号電圧の整合確認</p> <p>(誤)</p>  <p>図 1-58 検出情報と信号電圧の整合確認</p>				
	下から 3～1 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	<p>図 1-69 の MCK 回路でのマイコンが異常検知する仕組みは、モータの電源側端子の監視を行い、図 1-74 に示すモータ駆動停止時にマイコンの閾値と MCK の診断回路の信号電圧の比較が行われ、マイコンは、図 1-75(1) に示すマイコンの閾値をアップ・エッジする信号電圧を検出したときにと信号電圧に論理の不一致があるときに異常検知を行う。</p> <p>図 1-75-(1) に示すモータ駆動停止時に閾値をアップ・エッジする信号電圧を検出したときに異常検知を行う。また、図(2) に示すモータ駆動時に閾値をダウン・エッジする信号電圧を検出したときに異常検知を行う。</p>				
172 頁	図 1-74	図の差替え	<p>(正)</p>  <p>図 1-74 異常検知範囲</p> <p>(誤)</p>  <p>図 1-74 異常検知範囲</p>				
	図 1-75	図の差替え	<p>(正)</p>  <p>図 1-75 MCK 診断信号電圧の閾値</p> <p>(誤)</p>  <p>図 1-75 MCK 診断信号電圧の閾値</p>				
174 頁	下から 2～1 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	<p>場合には、MCK 駆動診断線から分岐した診断回路(0V が掛かる。)により、マイコンには、正常の駆動時と同じ 0V が掛かるため、正常・異常の判断ができず、異常検知は行わない。閾値をダウン・エッジする信号電圧を検出して異常検知を行う。</p>				
191 頁	表 2-1	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>52</td></tr> <tr><td>53</td></tr> </table> <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">略</span> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 20px;"> <tr> <td>・モータ・リレー ON 出力時の MCK 端子電圧が 24.5V 以下</td> </tr> <tr> <td>・モータ・リレー OFF 出力時の MCK 端子電圧が 63V 以上</td> </tr> </table>	52	53	・モータ・リレー ON 出力時の MCK 端子電圧が 24.5V 以下	・モータ・リレー OFF 出力時の MCK 端子電圧が 63V 以上
52							
53							
・モータ・リレー ON 出力時の MCK 端子電圧が 24.5V 以下							
・モータ・リレー OFF 出力時の MCK 端子電圧が 63V 以上							
193 頁	上から 17 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	<p>モータ OFF の故障診断をしており、発進時にモータを駆動し、モータ・チェック(MCK)電圧が 24.5V 以下～</p>				

変更頁	変更行	変更内容	
193 頁 194 頁 195 頁	図 2-5 図 2-6, 図 2-7 図 2-8	図の一部訂正	<p>図中の○部が訂正箇所 (ECU 内の電圧値を 12V から 5V に訂正すると共に抵抗を削除)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(正)</p>  <p>図 2-5 モータOFF故障診断時の断線の点検</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(誤)</p>  <p>図 2-5 モータOFF故障診断時の断線の点検</p> </div> </div>
194 頁	下から 21 行目	傍線部分を削除し、網掛け部分のように訂正	モータ ON 故障を診断しており、ポンプ・モータ・リレーOFF 時の MCK 電圧が 63V 以上のときに警告灯～
259 頁	上から 16～17 行目	第三版にて追加した部分になりますが、傍線部分を削除	<del>モータのコイル、駆動信号線、F/B 信号線、FET 電子スイッチ、駆動線、アース線</del> のいずれかに断線があ～
329 頁	図 7-146	図の番号を変更	<p>(正) 図 <u>1</u>-146</p> <p>(誤) 図 <u>7</u>-146</p>